環境活動報告書（2022年度）

（2023年10月発行）

株式会社　渡商会

WATARI　Co.,Ltd.

目次

１．　会社概要　1
（１）　株式会社渡商会
（２）　第一マルワ石油株式会社
（３）　アロープラント株式会社
（４）　WATARI VIETNAM Co.,Ltd.
（５）　売上高　3
（６）　ＩＳＯ１４００１活動の取り組み
（７）　報告書に関する情報

２．　経営者からのメッセージ　4

３．　環境方針　5
（１）　地球環境保全対策方針
（２）　マネジメント体制

４．　企業ビジョンの取組み　6

５．　環境に関する取り組みの状況　9
（１）　環境活動：目標
（２）　環境活動：結果　１０
（３）　個別の環境活動について
①　環境商品の取組み
②　地球環境への負荷の低減　１１
ⅰ）　フロン回収
ⅱ）　車両の排気ガスのクリーン化
③　省エネルギー・省資源の推進
ⅰ）　電気使用量の削減
ⅱ）　自動車燃料使用量の削減　１２
ⅲ）　コピー紙使用量の削減　１３
④　地域社会との共生
⑤　グリーン購入・調達の推進　１４
⑥　法令順守の状況　１５
⑦　廃棄物の削減及び資源リサイクルの推進
ⅰ）　産業廃棄物排出量の推移
ⅱ）　金属リサイクルの取り組み
ⅲ）　紙類リサイクルの取り組み
ⅳ）　再使用の取り組み　１６
⑧　物流関連のエネルギー使用の状況
⑨　教育関連
⑩　２０２２年度CO_2排出量

６．　投資

７．　重要な環境課題の特定　１７

１．会社概要（２０２３年１０月現在）

（1）株式会社渡商会

商　　号：株式会社渡商会
本 社 所 在 地：神奈川県横浜市神奈川区子安通２丁目２３４番地
創　　立：１９２５（大正１４）年
設　　立：１９４７（昭和２２）年１１月
代表取締役社長：河西 健二
資　本　金：２，０００万円
従 業 員 数：１４４名
　　第一マルワ石油株式会社出向者除く
事 業 内 容：各種高圧ガス、石油類の販売、高圧ガス関連設備の設計施工管理
　　医療関連設備機器の販売、保守管理
営　業　所：栃 木 営 業 所　　栃木県河内郡上三川町大字石田字北浦１２４０
　　上 武 営 業 所　　群馬県太田市新田上江田町４５０－１
　　多 摩 営 業 所　　東京都八王子市石川町２５５２
　　厚 木 営 業 所　　神奈川県厚木市長谷２６０－３１
　　三 重 営 業 所　　三重県津市雲出伊倉津町１２６８－３
　　津 事 業 所　　三重県津市雲出鋼管町１
　　福 岡 営 業 所　　福岡県京都郡苅田町新浜町１－３２
　　苅 田 事 業 所　　福岡県京都郡苅田町新浜町１－３
　　茨 城 出 張 所　　茨城県下妻市本城町２－７７

（2）第一マルワ石油株式会社

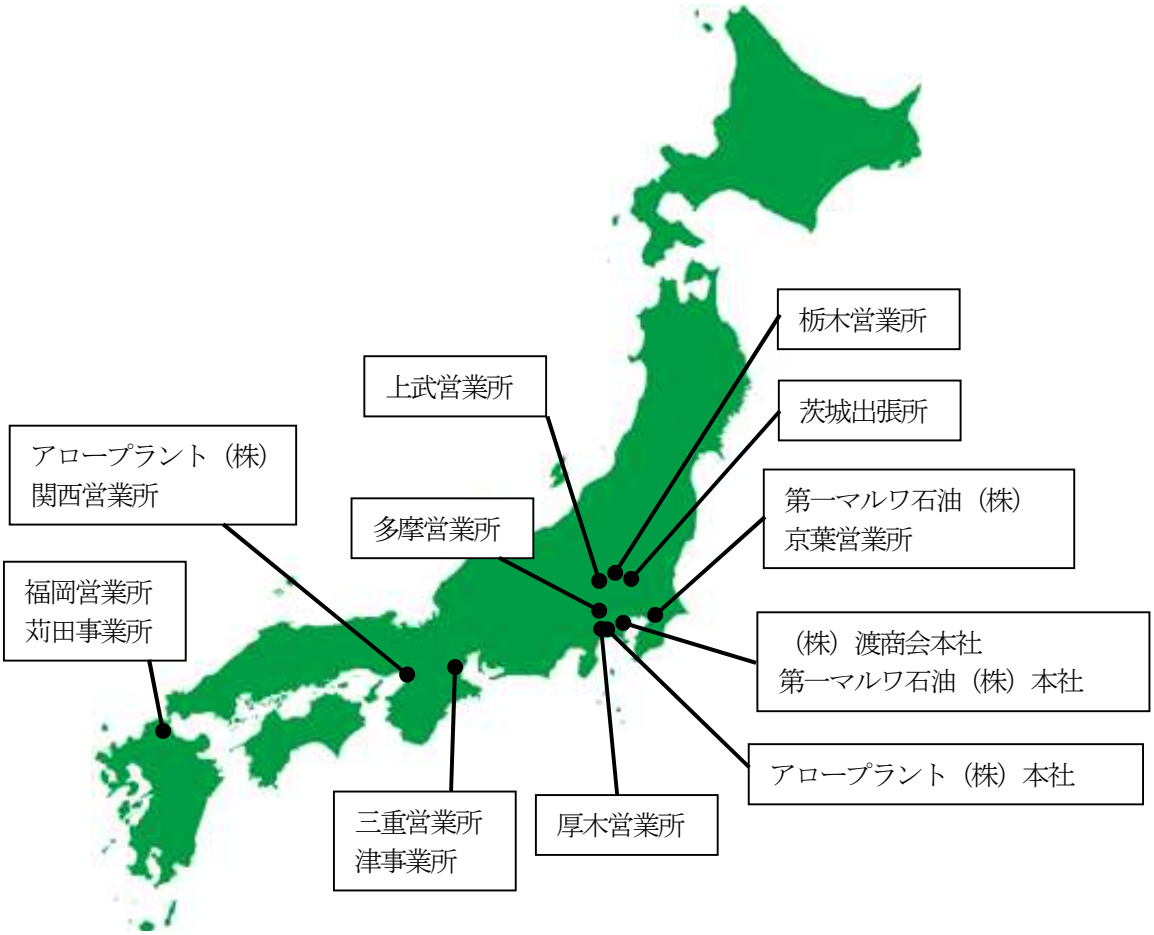
商　　号：第一マルワ石油株式会社
本 社 所 在 地：神奈川県横浜市神奈川区子安通２丁目２３４番地
設　　立：１９７４（昭和４９）年7月
代 表 取 締 役：飯田 哲也
資　本　金：１，０００万円
従 業 員 数：８名
事 業 内 容：石油製品類の販売
営　業　所：京 葉 営 業 所　　千葉県市川市大町７０－２

（3）アロープラント株式会社

商　　号：アロープラント株式会社
本 社 所 在 地：神奈川県藤沢市遠藤３２１０
設　　立：１９８１（昭和５６）年5月
代 表 取 締 役：細谷 悟
資　本　金：１，０００万円
従 業 員 数：２１名
事 業 内 容：石油、高圧ガスほか各種プラント設計・工事、空調・給排水厨房工事、プラント・設備の
　　検査、保守、修理

（4）WATARI VIETNAM Co.,Ltd.

商　　号：WATARI VIETNAM Co.,Ltd.
本 社 所 在 地：48/39 Tran Dinh Xu Street, Co Giang Ward, District 1, Ho Chi Minh City, Vietnam
設　　立：２０１２年１１月
代表取締役社長：土井 亮就
資　本　金：５００，０００ ＵＳＤ
事 業 内 容：高圧ガス、ガス設備・機器、ガス配管の設計・施工・管理、ガス漏れ警報装置、溶接材料

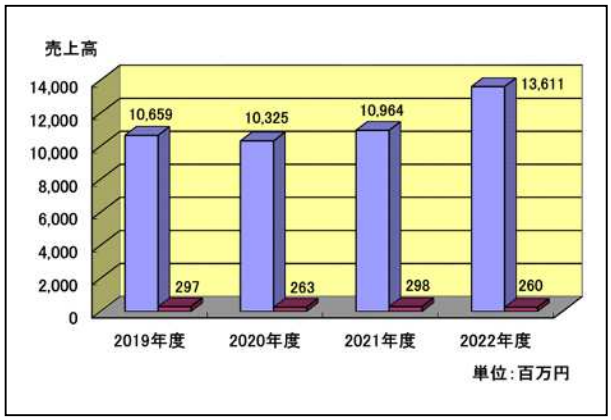


WATARI VIETNAM Co.,Ltd.

（5）売上高

株式会社渡商会及び第一マルワ石油株式会社の売上高の推移は以下のとおりです。

総売上高



■ 渡商会
■ 第一マルワ石油

環境商品売上高

■ 環境商品売上

（6）ＩＳＯ１４００１活動の取組み

ＩＳＯ１４００１認証取得年月	２００１年7月１９日
ＩＳＯ１４００１認証更新年月	２０２２年7月　８日
２０１５年規格への移行	２０１７年8月　４日
認証範囲（サイト）	株式会社渡商会本社、栃木営業所、上武営業所、多摩営業所 厚木営業所、三重営業所、福岡営業所、茨城出張所 第一マルワ石油株式会社本社
特定される活動	①高圧ガス及び関連機器の販売 ②高圧ガスの供給設及びその関連・付帯設備の製造、据付 及び付帯工事並びにその他の付帯サービス
登録番号	０１ＥＲ・１４３
審査登録機関	高圧ガス保安協会　ＩＳＯ審査センター

（7）報告書に関する情報

編集方針　本報告書は、ＩＳＯ１４００１の認証取得の対象である、株式会社渡商会、及び第一マルワ石油株式会社本社の環境保全活動に関して記載しています。

対象期間　２０２０年度から２０２２年度までの環境活動
企業情報は発行日現在（項目により違いがある場合は、個別に記載した）

２．経営者からのメッセージ

当社は、２０１６年に企業ビジョンを策定し、「私達は常に新しい分野に挑戦し、商社機能とメーカー機能を併せ持つ国内外のリーディングカンパニーを目指す」こととして、同年より様々な課題に取り組んでいます。

これは、挑戦を止めたとき人は成長が止まり、当社の財産である人の成長が止まったときには、当社の成長も止まると考えるからです。

企業ビジョン

挑戦そして成長

意識改革

人が更なる成長を目指すときには、意識改革がトリガーになります。それは、今までの考え方の延長線上にあるのではなく、そこから分岐した、或いはもともと違う軸に基く考え方を持つ必要があります。それを意識改革という言葉で表し、広く社内への浸透を図っています。

新規活動へのアプローチや、お客様への改善提案など、当社からの積極的な営業活動がこれからの成長を担うものと考えます。

新規事業

当社では、カーボンニュートラルの将来を見据えて水素エネルギー事業を積極的に推進しています。

水素ステーション関連事業では、水素ステーションの設計・施工だけでなく、運用開始後の保守・検査・修繕まで含めた対応が可能です。

また、今後の水素エネルギー事業は様々な展開を見せていく可能性を秘めていると考えています。

水素ステーション関連事業以外にも水素発電事業や水素燃焼エンジン開発など、新しい事業にも積極的に参画し、水素社会とＳＤＧｓの達成を目指してまいります。

積極的投資

当社の基盤である国内市場では、成長のためM&Aや異業種との業務提携へも投資してまいります。

意識改革による提案営業では、様々にカスタマイズできる自社開発の設備監視システムや、お客様構内への当社設備の設置などの積極的投資により、お客様のニーズを創造するような提案を行い、商社の枠から一歩踏み出す営業活動へ力を入れています。

2022 年 7 月 29 日に横浜市ＳＤＧｓ認証制度“Ｙ－ＳＤＧｓ”の認証を取得しました。これまで、IS014001 の取り組みは 22 年間、IS09001 の取り組みは 11 年間行ってきましたが、今後は環境に配慮した事業活動や品質向上の取り組みだけでなく、健康経営や地域貢献など幅広い取り組みを通して、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

本報告書をご覧の皆様には、当社の活動に一層のご理解をいただきますとともに、今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

２０２３年　１０月　２５日
株式会社　渡 商 会
代表取締役社長　　河西　健二

３．環境方針

（1）地球環境保全対策方針

基本理念

当社は、高圧ガスの販売を始めとする全ての企業活動を通じて、社会から信頼され、安心される企業を目指します。

地球環境保全対策方針

当社は、企業活動の中で、地球環境保護の活動を推進し、全生物が豊かに共生しうる地球環境の維持を目指します。これを実践するために、以下の五つの方針を定め行動します。

1．当社は、環境に関する適用可能な法的規制及び当社が同意したその他の要求事項を遵守し、汚染の未然防止に努めます。

2．当社は、企業活動のさまざまな局面において、地球環境への負荷の低減を図るため、次の事項を積極的に推進します。

（1）省エネルギー、省資源

（2）資源のリユース、リサイクル、廃棄物の削減

（3）環境に配慮した商品の開発、販売、購入

（4）未来エネルギー関連事業の強化

（5）フロンの回収、廃棄活動への関与

（6）地球にやさしい流通の実現

3．当社は、環境目標を設定し、環境管理活動を推進するとともに、見直しの枠組みを設け、環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めます。

4．本方針は、文書化するとともに、全従業員及び当社のために働くすべての人に周知します。また、環境保全意識向上のための教育、啓蒙活動を実施します。

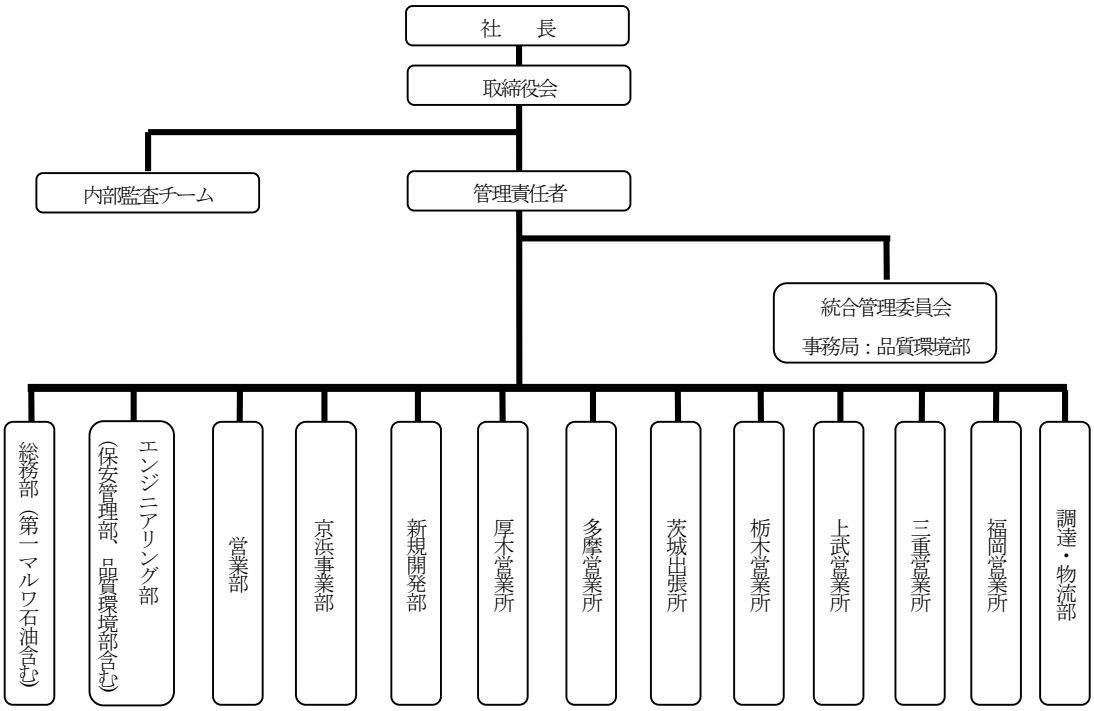
5．本方針は、一般に開示します。

２０１７年5月１日

株式会社　渡商会

代表取締役社長　ＣＥＯ　河西健二

（2）マネジメント体制



挑戦そして成長

当社は、挑戦そして成長という企業ビジョンの達成のために、「常に新しい分野に挑戦し、商社機能とメーカー機能を併せ持つ」国内外のリーディングカンパニーを目指しています。

★常に新しい分野への挑戦

水素ステーション
新エネルギー事業推進室を中心に、水素関連設備やＬＮＧ／ＣＮＧ等のプラント設備など、地球環境に関連する未来エネルギー関連事業について取り組んでいます。

中でも、水素ステーションの設置工事は着実に実績を積み重ねています。又、運用開始後はその定期メンテナンスも請け負っております。超高圧設備の点検には技術力を持った子会社のプラント検査会社が施工に当たります。

新エネルギー事業推進室

当社は、お客様に設備の設計・施工からメンテナンス更には運用・緊急時対応まで、技術力を備えたトータルソリューションの提案を行っています。

次世代エアコンガス充填装置、キャニスターローディングパージ装置、集中監視システム

当社は設立当初から、主要得意先である自動車メーカーとは製造部門から研究部門まで、高圧ガスを始め、冷媒充填装置やガス漏れ警報器､各種監視装置まで､その時々の要望に応える形で様々な設備を提供してまいりました。
今、自動車産業のみならず、環境問題は全ての事業者が避けて通れない課題です。自動車関連では排気ガスや燃料に関する規制は歩みを止めることはありません。
直近ではオゾン層保護法の改正（2019 年１月施行）などもあって、代替フロンガス（ＨＦＣ）の更なる代替品への移行が迫り、燃料関連のキャニスターでも 2019 年にＰhase3 から Phase4 へその規制が移行しました。

キャニスターローディングパージ装置
自動車には、燃料のガソリンの蒸発分を吸着するキャニスターという部品があります。キャニスターに吸着された蒸発ガスは、大気中に放出させずに走行時にエンジン内に送り込まれ燃焼させられます。
このときの排出ガスに関する規制が２０１９年から Phase４として一段厳しくなりました。当社ではこの規制強化に合わせたキャニスターローディングパージ装置も提供いたします。

（ CANISTER TESTER ）

次世代エアコンガス充填装置

自動車のエアコンガスは､現時点での主流ガスである、Ｒ－１３４ａからよりオゾン破壊係数、地球温暖化係数の少ないガスへの変換が計画されています。次世代冷媒として今後は、ＨＦＯ１２３４ｙｆが、日本を含め世界のスタンダードになるものと考えられています。

次世代エアコンガス充填装置コンソール

新冷媒充填装置（リペア用）

当社は日本で初めて、自動車会社の製造ラインに、この次世代冷媒の充填装置を設置しました。

２０２０年１０月現在、合計１３の製造ラインに設置されています。

設備監視システム

様々なガス関連設備に関してお客様の要望に応えてきた当社は、エンジニアリング部門に各種流体の制御技術が蓄積されています。

これらの技術から､「設備監視システム」を開発しました。

これは、既設設備の制御盤と連動し、警報発報、データ収集、遠隔操作など情報の一元管理及び情報の共有化が図れるものです。

ＷＥＢサーバー、メール作成機能付ＰＬＣを採用し、独立した通信を構築しました。

パッケージソフトを自社製作し、コストを低減しています。

設備監視システムの狙いは大きく３点挙げられます。

１．<u>情報の一元管理と共有化</u>
　　社内ＬＡＮ経由で社内ＰＣでの情報管理

２．<u>遠隔での状態監視及び操作</u>
　　社内ＰＣ、スマートフォン（タブレット含む）での警報受信、復旧操作

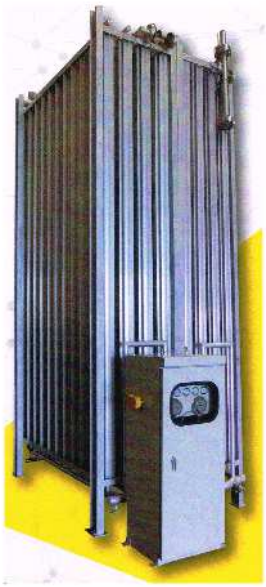
３．<u>人的負担の軽減</u>
　　情報の共有化による人的省力化、無人化

管理する対象は、温度、圧力、流量、濃度、重量、火災、地震など様々な要素が可能です。
お客様の要望に、最適なソリューションでお応えします。

★商社機能とメーカー機能を併せ持つ国内外の･･･

経営者のコミットメントに積極的投資と掲げてあるとおり、お客様のニーズに合わせ、お客様の敷地内への当社設備の設置などの取引形態など、従来とは違う形での提案を進めています。市場、経済状況など様々な要因が変化する中、お客様の事業内容を見極め、時には当社が設備を設置するなどの投資案件にも力を入れています。

タイの子会社の、Watari Manufacturing Gas Service Co.,Ltd で製造した各種の空冷式ベーパライザーは、東南アジアでの販売は勿論、ＬＰＧガス用以外のベーパライザーは国内で販売をしています。



独自開発のアルミフィンチューブにより、コンパクトサイズながら高効率です。

長時間の連続使用を狙いとして、自動切換え供給装置も用意しました。
ＳＧ０２５（気化能力２５ｍ３／ｈｒ）を２台連結し、片側の容器圧力が低下したら自動で予備側の容器からガスを供給します。

高圧ガス保安法の特定設備に該当しない空温式ベーパライザー（ＳＧ０２５（液化酸素、液化窒素、液化アルゴン用））、並びにアルミフィン上部に設置した付属ファンの動力として１００Ｖ電源だけを使用する液化炭酸ガス用（ＣＤ０４０）のいずれも、数多くお問合せをいただき、既に何件も採用していただいております。
尚、液化炭酸ガス用空温式ベーパライザーの製造施設への該当につきましては、都道府県により見解が異なりますので、導入を検討される場合は、弊社までお問合せください。

★環境商品

当社は企業ビジョンの元、高圧ガスをはじめとする各種商品の販売と関連する設備の設計施工という本来業務の中で、環境への配慮した商品の提案・販売に取り組んでいます。

本環境報告書で数年前よりご紹介しているとおり、当社の取扱商品のうち、省資源・省エネルギーに資するもの、商品そのものが長寿命の物、お客様の環境の取組みに関連する各種設備などを「環境商品」として特定し、積極的にお客様に提案しています。

特定した商品の一例などは、後掲の環境商品の項目でご確認ください。

★トータルソリューション

事業開始時には圧縮ガス容器１本であったガスの使用量が、業務の拡大とともに使用量も増加し、複数容器を同時に使用する集合装置、また圧縮ガスに比較してガス量の多い超低温容器での液化ガスの供給へ、更にはＣＥ（コールドエバポレーター）設置によるタンクローリーでの供給と、お客様のニーズに合わせた供給形態を提案いたします。

お客様の使用状況に合わせた監視測定設備も、ご提案しています。（1）項でご紹介したように、様々な情報を纏めた集中監視システムもご用意しています。

そこには使用状況に最適な供給設備の設計施工から、定期メンテナンスや警報装置などの保安面での対応、更にはお客様の構内での各種保安教育の実施など、もちろん高圧ガス保安法をはじめとする様々な法律への対応を含め、お客様に安心・安全をお届けするトータルソリューションの考え方による営業活動があります。

私たちは企業ビジョンの達成により地球環境に貢献できるものと考えています。

５．環境に関する取組みの状況

（1）環境活動：目標

環境方針、著しい環境側面、法規制等の要求事項から２０２２年度の環境目標を下記のとおり設定しました。

2020 年度　目標	2021 年度　目標	2022 年度　目標
フロン回収・廃棄活動の推進（監視）	フロン回収・廃棄活動の推進（監視）	フロン回収・廃棄活動の推進（監視）
電気使用量　2019 年度実績の維持	電気使用量　2020 年度実績の維持	電気使用量　2020 年度実績の維持
空調設備の更新　１台	空調設備の更新　１台	空調設備の更新　１台
自動車燃料使用量 2019 年度実績の維持	自動車燃料使用量 2020 年度実績の維持	自動車燃料使用量 2021 年度実績の維持
燃費向上　2019 年度実績の維持	燃費向上　2020 年度実績の維持	燃費向上　2020 年度実績の維持
コピー紙使用量を 2019 年度実績の維持	コピー紙使用量を 2020 年度実績の維持	コピー紙使用量を 2021 年度実績の維持
産業廃棄物排出量の監視	産業廃棄物排出量の監視	産業廃棄物排出量の監視
再使用の推進　2019 年度実績の維持	再使用の推進　2020 年度実績の維持	再使用の推進　2021 年度実績の維持
環境商品販売実績 2019 年度実績の 5%ｱｯﾌﾟ（ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ）	環境商品販売実績　200,000 千円	環境商品販売実績　100,000 千円
環境商品販売実績の監視（営業）	環境商品販売実績の監視（営業）	環境商品販売実績の監視（営業）
環境商品の提案　2,151 ﾎﾟｲﾝﾄ	環境商品の提案　3,357 ﾎﾟｲﾝﾄ	環境商品の提案　4,297 ﾎﾟｲﾝﾄ
新ｴﾈﾙｷﾞｰ関連事業工事 メンテナンス受注４件	新ｴﾈﾙｷﾞｰ関連事業工事 メンテナンス受注５件	新ｴﾈﾙｷﾞｰ関連事業工事 メンテナンス受注５件
グリーン購入率　95%	グリーン購入率　80%	グリーン購入率　80%
事務用品以外のグリーン購入の推進（監視）	事務用品以外のグリーン購入の推進（監視）	事務用品以外のグリーン購入の推進（監視）
グリーン調達の推進	グリーン調達の推進	グリーン調達の推進
SDS の配布　100%維持	SDS の配布　100%維持	SDS の配布　100%維持
会社周辺の清掃　年４回		
外部講習への出席　９人	外部講習への出席　５人	外部講習への出席　５人

2020年度　目標	2021年度　目標	2022年度　目標
環境パトロールの実施　年６回	環境パトロールの実施　年６回	環境パトロールの実施　年６回
環境情報の提供　年２回	環境情報の提供　年２回	環境情報の提供　年２回
物流関係燃料使用量について 削減方法の検討	物流関係燃料使用量について 削減方法の検討	物流関係燃料使用量について 削減方法の検討

（２）環境活動：結果

２０２２年度の各項目の達成状況は以下のとおりです。

判定　○：達成　×：未達成

№.	目的	目標	判定
1	フロンの回収・廃棄活動の推進	フロン回収・廃棄活動の推進	○
2	電気使用量削減	電気使用量　２０２１年度実績の維持	○
		空調設備の更新　１台	○
3	自動車燃料使用量の削減	自動車燃料使用量　２０２１年度実績の維持	○
		燃費向上　２０２１年度実績の維持	×
4	コピー紙使用量の削減	コピー紙使用量を　２０２１年度実績の維持	×
5	廃棄物の削減	産業廃棄物排出量の監視	○
		再使用件数　２０２１年度実績の維持	○
6	環境商品の提案	環境商品の提案　４，２９７ポイント	○
		環境商品販売実績　100,000-千円（ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ）	○
		環境商品販売実績の監視	○
		新エネルギー関連事業　工事、メンテナンス受注　５件	○
7	グリーン購入の推進	グリーン購入実施　購入率　８０％	×
		グリーン調達の推進	○
		事務用品以外のグリーン購入の推進（監視）	○
8	ＳＤＳの配布	ＳＤＳの配布　１００％維持	○
9	従業員環境教育	外部講習への出席　５人	○
10	環境パトロールの実施	環境パトロールの実施　年　６回	○
11	下請業者へ環境情報提供	下請業者の環境情報提供　年　２回	○
12	エネルギー使用の合理化	物流関係燃料使用量について削減方法の検討	○
13	ＣＯ２排出量の少ない流通の実現	ＣＯ２排出量を集計する	○

（３）個別の環境活動について

①環境商品の取り組み

当社の主力商品である高圧ガスは、数え切れないほどの種類があります。それらは、様々な分野で使用されています。

工業製品の製造過程で使用さるのは勿論、農業、漁業、運輸、小売などその分野は多岐にわたります。

高圧ガスは、大きく可燃性、毒性、不燃性の性質を有しますが、これらの性質を、より目的に合わせるために、混合したり、新たな高圧ガスを開発したりしています。

◎冷媒ガス

オゾン層保護や温暖化対策といった地球環境の保護・保全への取組みが進む中、オゾン層破壊係数や温暖化係数という指標により、新たな冷媒ガスに関する研究開発が続けられています。

冷媒に要求される性質は、次の項目があります。

・毒性、燃焼性が低く、安全性に優れること
・地球環境や周囲の環境を破壊しないこと
・化学的に安定であること
・適度な沸点をもつこと

これらの項目を満たしている冷媒に、「新冷媒（HFO-1234yf）」があります。当社はその充填装置はもちろん、ガスも取り扱っています。

また、フロン回収装置販売や、フロン回収・破壊作業といった、フロンを大気へ放出することを防ぐ社会的な取り組みも、行っています。

◎溶接・切断用ガス

金属の溶接・切断には、高圧ガスが使用されます。

金属を熱して接続する、或いは加熱した金属に酸化させるガスを噴出することで切断するという原理に変わりはありませんが、長い歴史の中でその加工品質の向上や、作業効率改善のためにいろいろな高圧ガスが研究されています。

溶接速度や切断面の品質など、目的に合致したガスを使用することで驚くほど作業効率が改善されます。

近年では、安全性、作業環境、地球温暖化対策等を考慮した溶接・切断用ガスが開発されています。

当社はお客様の業務内容を熟知した営業担当者が、最適なガスを提案します。

◎食品

食品の酸化による鮮度劣化防止のために、窒素ガスが使用されますが、更に、炭酸ガスや酸素ガスを用途により混合することで、保存期間の延長が可能になります。

2016年度に国内で出た食品の廃棄ロスの推計値は約640万トンに上り、環境面からも問題視する動きが強まっています。

食品の廃棄ロス削減に向け、様々な取り組みが行われています。農林水産省などは賞味期限が迫った食品は小売店に納入しないという習慣を緩和するよう食品業界に要請しています。また、食品の販売を賞味・消費期限ギリギリまで延長する社会実験を実施した市町村もあります。流通業界や食品メーカーでも、賞味期限の「年月日」の表示から「日」を省くことで、品質に問題がないのに売れ残って廃棄処分される商品を減らそうとする動きが広がりつつあります。

これらは、当社の扱っている高圧ガスの一例です。当社は、お客様の業務内容をしっかり理解し、お客様に最適な商品を提案してまいります。

②地球環境への負荷の低減

ｉ）フロン回収

得意先の冷蔵設備やエアコンの冷媒に使用されている特定フロン（ＣＦＣ）や代替フロン（ＨＣＦＣ）の回収作業を積極的に案内することにより、オゾン層破壊の防止に努めています。

	2020年度	2021年度	2022年度
回収・破壊実績（回数）	201回	227回	166回
回収量等の実績（Ｋｇ）			
ＣＦＣ	0.22	1.08	0.14
ＨＣＦＣ	1,724.26	2,456.805	1,775.96
ＨＦＣ	2,127.02	1,179.45	1,891.47
ＨＦＯ	0	0	0
ハロン1301	0	1.5	0

当社は、神奈川県、東京都、埼玉県でフロン回収業の登録をしています。

ⅱ）車両の排気ガスのクリーン化

当社の使用する車両は全て排出ガス規制の適合車となっています。

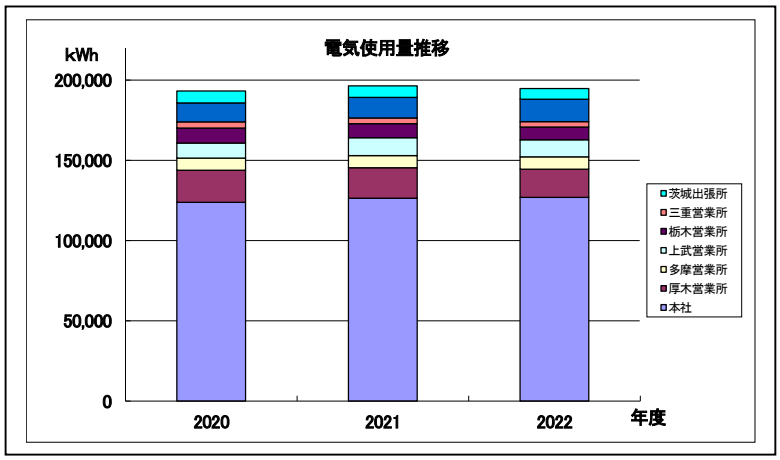
「かわさきエコドライブ宣言」に登録し、川崎市で毎年行われるエコドライブ講習会に参加しています。

③省エネルギー・省資源の推進

ｉ）電気使用量の削減

節電施策で大きな変更はありません。空調の設定温度や不要な照明の消灯などの施策は、誰もが率先して実施しています。使用量の変動の要因として、天候が挙げられます。

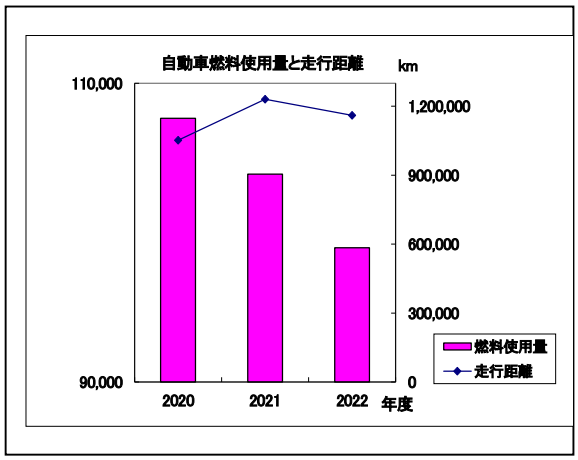
	2020年度	2021年度	2022年度
本社	123,866	126,440	126,856
厚木営業所	19,991	18,926	17,643
多摩営業所	7,522	7,564	7,692
上武営業所	9,337	11,109	10,620
栃木営業所	9,367	8,755	7,883
三重営業所	3,860	3,605	3,357
福岡営業所	11,775	12,765	13,966
茨城出張所	7,383	7,231	6,725
合計	193,101	196,395	194,742

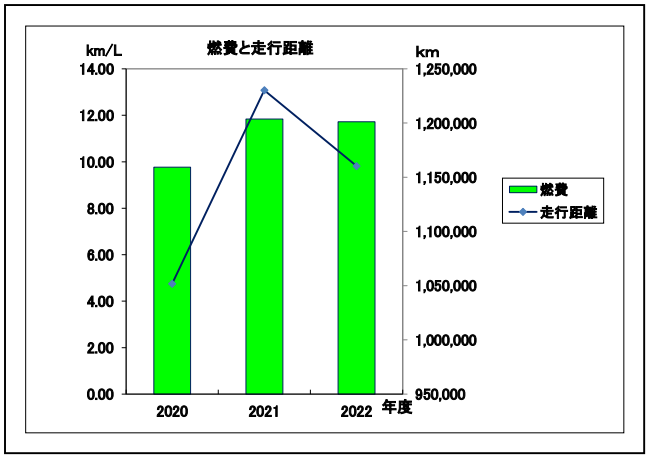


ii）自動車燃料使用量の削減

自動車燃料使用量、走行距離、燃費の推移は以下のとおりです。

	2020年度			2021年度			2022年度		
	燃料 (L)	走行距離 (km)	燃費 (km/L)	燃料 (L)	走行距離 (km)	燃費 (km/L)	燃料 (L)	走行距離 (km)	燃費 (km/L)
本社	54,683	423,459	7.74	56,283	630,746	11.21	51,299	569,550	11.10
厚木営業所	8,168	92,157	11.28	7,959	83,665	10.51	9,379	102,585	10.94
多摩営業所	5,716	90,257	15.79	5,498	85,999	15.64	4,946	74,676	15.10
上武営業所	10,260	134,483	13.11	9,695	134,365	13.86	9,193	135,885	14.78
栃木営業所	11,581	122,411	10.57	9,039	127,861	14.15	7,816	101,740	13.02
三重営業所	4,294	55,259	12.87	3,971	51,451	12.96	3,980	51,935	13.05
福岡営業所	10,924	100,198	9.17	9,725	86,881	8.93	10,871	93,251	8.58
茨城出張所	2,028	33,459	16.50	1,742	29,234	16.78	1,507	30,672	20.35
合計	107,654	1,051,683	9.77	103,912	1,230,202	11.84	98,991	1,160,294	11.72





単位：台

部署＼年度	2020	2021	2022
本社	38	37	36
厚木営業所	7	7	8
多摩営業所	5	5	5
上武営業所	6	6	6
栃木営業所	8	7	7
三重営業所	4	4	4
福岡営業所	6	7	7
茨城出張所	2	2	2
合計	76	75	75

※参考　当社の保有車両は右のとおりです

自動車燃料に関する取り組みは、従来総使用量を指標としてその削減に取組んでまいりました。

車両そのものが低燃費車へ入替えとなったり、その他様々な要因で使用量は削減されてまいりましたが、当社の車両は、営業活動で使用するため、業務との兼ね合いで使用量をむやみに減らすことには困難を生じており、近年は、燃料使用量に燃費も目標に加えて２本立てで取組んでいます。

ⅲ）コピー紙使用量の削減

単位：枚（Ａ４換算）

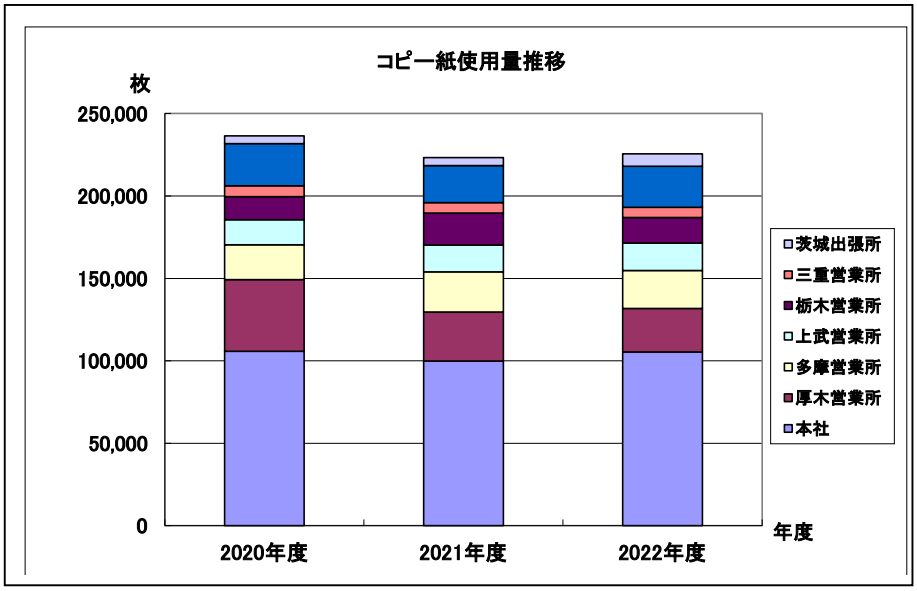
	2020 年度	2021 年度	2022 年度
本社	105, 864	99, 937	105, 401
厚木営業所	43, 427	29, 678	26, 320
多摩営業所	21, 066	24, 363	23, 134
上武営業所	15, 270	16, 230	16, 590
栃木営業所	14, 040	19, 440	15, 450
三重営業所	6, 540	6, 300	6, 300
福岡営業所	25, 500	22, 500	24, 900
茨城出張所	4, 800	4, 800	7, 500
合計	236, 507	223, 248	225, 595

コピー紙使用量の推移は右図のとおりです。紙そのものを使用しないという考えに基き、社内システムの電子化（各種申請のデータベース利用）を進めています。

コピー紙ではありませんが、コンピュータのストックフォームや、売上記録用に使用する専用の用紙を廃止して、紙の使用量の削減に努めています。

但し、専用の用紙を廃止しましたが、一部ではコピー紙による印刷へ移行している場合があり、その分がコピー紙使用量の増加の要因となっています。

＊施策の例：両面・縮小印刷、ＦＡＸの受信の電子化、スキャナー利用による部署間の資料の送受信の電子化



④グリーン購入・調達の推進

環境負荷低減に貢献する商品の購入のうち、社内で使用する物品の購入を「グリーン購入」、得意先へ販売する商品の購入（仕入）を「グリーン調達」と区分し取組んでいます。

ⅰ）グリーン購入

グリーン購入では、事務用品を対象にしています。また、総務部では事務用品以外でも、什器・備品などの購入の際に配慮しています。

事務用品選定時の指標は以下のとおりです。

・環境物質等の調達の推進に関する基本方針

・ＧＰＮ（グリーン購入ネットワーク）のエコ商品ネット
・各社が発行しているカタログ
・グリーン商品として登録されていないが、事務用品の長期使用に繋がる消耗品
（ボールペン替え芯、修正テープカートリッジなど）

ⅱ）グリーン調達

各種商品の購入先(仕入先)には、当社の取組みを纏めたグリーン調達ガイドラインにより、環境保全活動への協力を依頼しています。

協力依頼の内容は、製品の製造時や輸送時など、それぞれの場面で負荷物質の低減や省エネルギー、省資源の取組みです。

⑤法令順守の状況

２０２２年度の主な法令等の順守状況は次頁のとおりです。

名称（一部略称あり）	主な要求事項	遵守状況
高圧ガス保安法	販売業届出、販売主任者選任、周知の実施	○
液化石油ガス法	販売事業登録、保安業務の実施	○
毒物劇物取締法	販売業登録、取扱責任者選任、保管状況、譲渡書の保管	○
医薬品医療機器等法	卸売販売業許可、管理者選任	○
労働安全衛生法	安全責任者・衛生責任者選任、各種講習・特別教育の受講	○
廃掃法	特別管理産業廃棄物管理者の選任、マニフェスト管理、報告	○
フロン排出抑制法	届出、回収量の報告	○

★産業廃棄物処理状況の現地確認

産業廃棄物処理業者の現地確認を行いました。

処分状況（廃プラスチック）

処分状況（焼却処理）

⑥廃棄物の削減及び資源リサイクルの推進

ｉ）産業廃棄物排出量の推移　　単位：ｔ

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
本社	16.508	9.58	10.476
厚木営業所	0.63	—	—
多摩営業所	6.1	0.67	0.70
上武営業所	—	—	0.14
栃木営業所	1.82	1.82	1.04
福岡営業所	0.69	0.6	4.0
茨城出張所	—	0.026	—
合計	25.748	12.696	16.356

＊産業廃棄物の主な種類は、廃プラスチック、木くず、金属くず、廃油、廃アルカリ、紙くず、蛍光灯、汚泥、陶磁器くず、がれき類です。

ⅱ）金属リサイクルの取り組み

本社では、産業廃棄物のうち各種金属類を構内で分別し、金属リサイクル業者へ持ち込みリサイクルに取組んでいます。

金属リサイクル業者への持ち込み量の推移　　単位：Ｋｇ

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
鉄	4, 210	1, 060	1, 050
銅系非鉄	390	40	0
ステンレス類	560	310	880
アルミニウム	0	0	40
合計	5, 160	1, 410	1, 970

ⅲ）紙類リサイクルの取り組み

本社では、不要な紙類も大量に発生するため、一時保管場所を設け、構内で分別して古紙リサイクル業者へ持ち込みリサイクルに取組んでいます。

古紙リサイクル業者への持ち込み量の推移　　単位：Ｋｇ

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
ダンボール	1, 780	1, 060	980
新聞	280	390	460
雑誌類（＊）	1, 500	1, 230	1, 300
合計	3, 560	2, 680	2, 740

ⅳ）再使用の取り組み

当社では、本社独自の取り組みで、物品の再利用、長期使用を目的として再使用という活動を行っています。

各部署で不要なものを社内ネットワーク上に登録し、他部署がそれを再利用（再使用）するというものです。実績をポイント制とし、各部署が数値目標にして活動しています。

再使用件数の推移　　単位：件数

年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
再使用件数	43	56	58

＊再使用した物品の例：
梱包用ダンボール、配管材料、
ボールペン、クリアホルダー

⑧物流関連のエネルギー使用の状況

エネルギー使用の合理化等に関する法律では、運輸部門に関して、年間３，０００万トンキロとなる事業者（荷主）が、その対象です。

当社はその特定荷主に該当しませんが、実績の監視を継続しています。

実績の集計のもととなる当社の運送形態は、以下のとおりです

・当社の配送車を使用した配送

・配送契約による当社専属の配送車による配送

単位：千トンキロ

年度	輸送量
2020 年度	436
2021 年度	184
2022 年度	258

⑨教育関連

年２回実施する管理層を含めた定期教育のほか、外部講習へ積極的に参加しています。

年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
人数（延べ）	5 名	11 名	17 名

※２０２２年度で参加した外部講習等の例

エコバディスセミナーなど

⑩２０２２年度CO_2排出量

項目	エネルギー源　CO_2排出係数	使用量	CO_2排出量
電気使用量	0.503kg/ｋｗｈ（※２）	194,742kwh	97,955.226
ＬＰガス（※１）	6 kg/㎥（※３）	361.99 ㎥	2,171.94
ガソリン	2.331kg/L（※３）	98,991L	230,748.021
水道	0.54kg/㎥（※４）	1,124 ㎥	606.96
排　出　量　合　計			331,482

※１　自家使用のため概算
※２　電気事業者別排出係数（Ｒ２．１．７環境省・経済産業省公表による）
※３　温室効果ガス総排出量算定方法ガイドラインＶｅｒ．１．０による
※４　日本レストルーム工業会資料による

CO_2排出量の推移

単位：ｋｇ

年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
CO_2排出量	350,727	343,231	331,482

６．投資

認証登録維持のための外部審査費用をはじめ、法令等の情報収集のための費用、その他一般的な環境情報を入手する手段としての書籍の定期購読費用、各種備品や、業務で発生した廃油の処理費用などのために、予算が割り当てられています。

単位：円

番号	項目	2020年度	2021年度	2022年度
1	備品	12,792	36,970	0
2	設備工事	0	0	0
3	講習研修、審査登録等	643,200	497,400	1,068,400
4	法令等書籍	55,637	115,637	120,597
	合計	711,629	650,007	1,188,997

７．重要な環境課題の特定

著しい環境側面

２０２３年１月に実施した環境側面の定期見直しで、特定された当社の著しい環境側面は以下のとおりです。

環境側面	部署	定常時／非定常時
コピー紙の使用	全部署	定常時
電気の使用	全部署	定常時
自動車燃料の使用	全部署	定常時
排気ガスの発生	全部署	定常時
環境に配慮した商品の購入	全部署	定常時
フロン回収作業の推進	営業部	定常時
環境に配慮した商品の提案	京浜事業部、営業部、新規開発部、総務部、営業所、出張所	定常時
車両からの粉塵の発生	エンジニアリング部、京浜事業部、新規開発部、総務部、営業所、出張所	定常時
環境に配慮した設計	エンジニアリング部、京浜事業部、新規開発部、営業所、出張所	定常時
可燃性ガス大量漏れの発生	エンジニアリング部、新規開発部、営業部、京浜事業部、営業所	非定常時
毒性ガス大量漏れの発生	新規開発部、営業部、京浜事業部、厚木営業所、上武営業所、福岡営業所	非定常時
塩化水素大量漏れの発生	福岡営業所	非定常時

株式会社　渡商会
〒221-0021　横浜市神奈川区子安通　2-234
TEL 045-441-1330 FAX 045-441-1567
http://www.watari.co.jp